



国民の森林・国有林

中部森林管理局

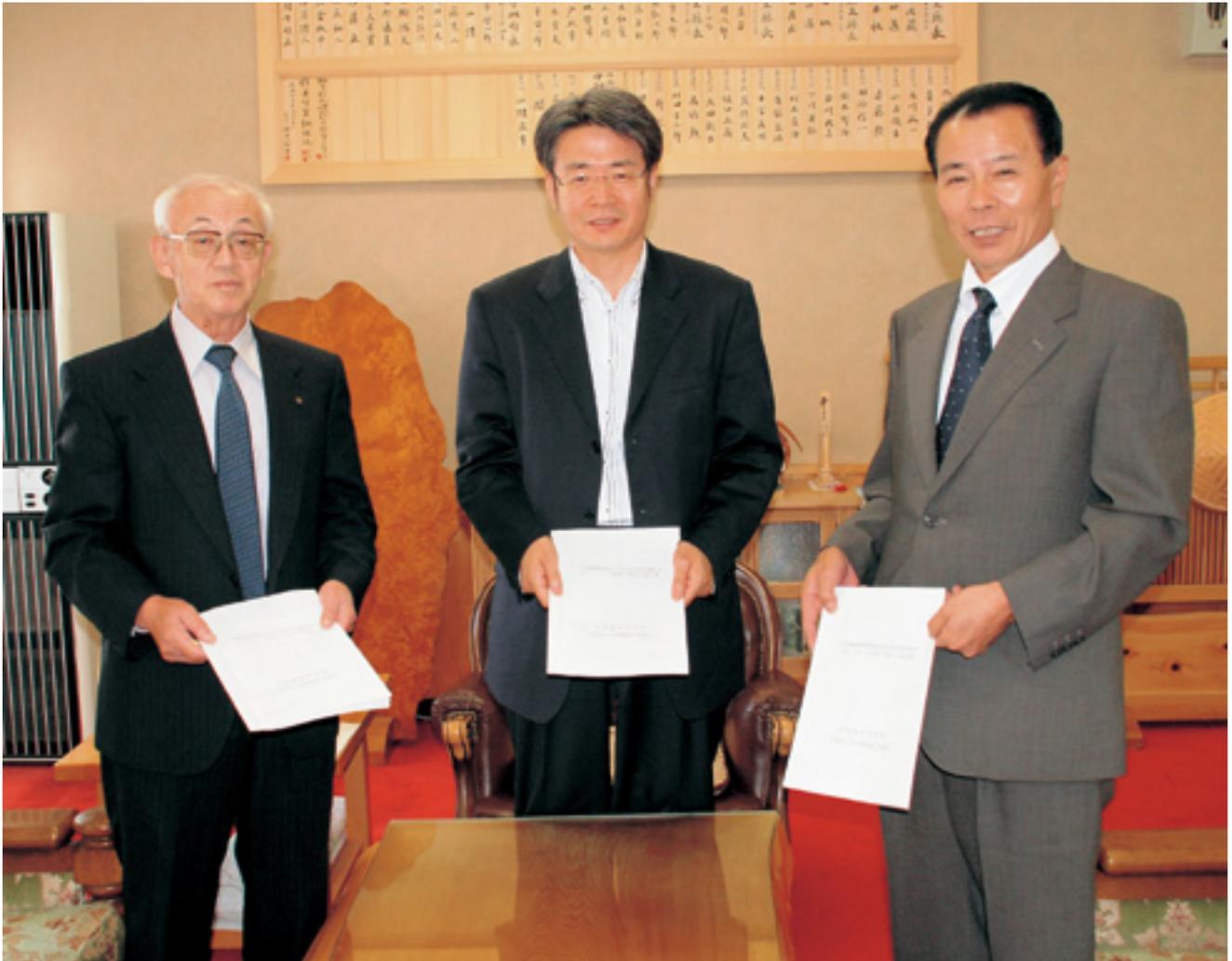
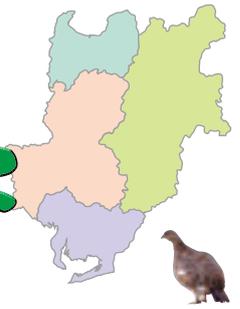
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



締結を終えた3者

「国有林防災ボランティア制度に関する協定」の締結を終えて

(P2に関連記事)

主な項目	○管内各県との林政協議会等の開催について	P 4
	○ボランティア活動	P 5～6
	○シリーズ現場最前線	P 9



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

森林・希少種等の保護、 林業、災害復旧



「国有林防災ボランティア制度に 関する協定」の締結について

〔治山課〕 本年三月に、国有林防災ボランティア制度が創設されたことに鑑み、七月十四日に「中部森林管理局における国有林防災ボランティア制度に関する協定」を(社)長野林業土木協会長・(社)名古屋林業土木協会長と締結しました。

当局においては既に「災害時における応急対策業務に関する協定」が結ばれており、平成十八年七月の中南信地域を襲った豪雨災害時において、両協会に情報収集等を実施していただいておりますが、今後は、新たな協定の元で協力をお願いすることとなりました。



協定締結を前に

南アルプス食害対策協議会総会 において森林官が講演

〜地域一体となった
ニホンジカ被害対策の推進〜

〔南信署〕 近年、伊那谷流域ではニホンジカによる被害が増大し、その対策の推進が民有林、国有林の共通した重要な課題となっています。

このため、当署では今年度から新たに「地域一体となったニホンジカ被害対策の推進」を、流域管理アクションプログラムの重点事項に位置づけ、民・国の連携を一層強化することで、より効果的、効果的なニホンジカ被害対策に取り組むこととしています。

この取組の一つとして、地域の関係機関で組織する「南アルプス食害対策協議会」での取組があります。この協議会は、世界遺産への登録を目指す南アルプス周辺区域において、ニホンジカ被害対策の広域的な連携を目的に、南アルプス周辺の国有林を管理する当署をはじめ、関係市町村の伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村に加え、長野県、信州大学農学部が構成団体となり昨年九月に設立されました。

設立二年目に当たる今年度からは本格的な事業に取り組むこととしており、六月二十四日に開催された同協議会の総会では、今年度当署が仙丈ヶ岳のお花畑で予定している、ニホンジカ防護柵設置

に、同協議会として協働実施することなどを内容とした事業計画が承認され、現在、当署、同協議会、環境省等の関係者で実施に向けた具体的な内容を検討しています。

また、同協議会総会では、国有林の現場第一線で、日頃からニホンジカ被害対策をはじめとした美しい森林づくりに懸命に取り組んでいる、佐野大鹿森林官が「国有林におけるニホンジカによる被害と対策について」と題した講演を行いました。



南アルプス食害対策協議会総会の様子

佐野森林官は、当署の管理する国有林内における被害状況や、ニホンジカ防護柵、樹木保護ネットなどの防除対策から地域関係者が連携した広域一斉捕獲への参加・協力、職員自らによるワナ設置、

さらには今年度新たに結成した有害獣捕獲チームの取組など幅広い内容についてパワーポイントを使い分かりやすく説明し、参加した同協議会委員の各機関の長をはじめとして多くの関係者に、国有林の取組への理解を深めていただくことができました。

当署では、このような取組を通じて、今後さらに地域一体となったニホンジカ被害対策を推進することとしています。

希少野生植物保護に向けた取組

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」

木曾町福島市街地の北西に位置する城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリや貴重な植物として各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

近年、「城山史跡の森」への登山者等の増加に伴い、自生地への悪影響が懸念されることから、自生地の保護対策や地域振興への活用等について、各方面から幅広く意見を聞く、意見交換会を六月二十日に開催しました。

当日は、木曾地方事務所、木曾町、城山史跡の森倶楽部会員、有識者及び木曾町の広報により募集し、応募のあった地元住民の方々等総勢十三名が参加し、当ふれあいセンターからササユリ自生地を経てカタクリ自生地まで徒歩で移動し、

当センターからの現状説明の後、意見交換を行いました。



ササユリを囲んでの意見交換

間伐キャラバンで

国有林の取組をアピール

「企画調整室」林野庁は、六月三十一日、中部森林管理局管内の四県において、県・市町村の担当職員や森林組合、林業事業者等関係者を対象に、五月に施行された「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」の説明会を開催しました。各説明会では、林野庁間伐対策室長らが、京都議定書の第一約束期間の終期である平成二十四年度までの集中的な間伐等の実施の促進を図ろうという同法の主旨や内容を説明し、新たに創設された交付金等の助成措置を活用して間伐等に取り組むよう訴えました。

また、森林管理署長等が、前年度比一五〇％となる間伐の計画、低コスト作業システムの現地検討会及び地元自治体との森林整備協定など間伐促進に関連した中部森林管理局の取組を紹介し、民有林・国有林が連携して間伐等森林整備を進めようと呼びかけました。

なお、同説明会には、日頃から民有林との連携推進を担っている全署の流域管理調整官等国有林からも多数参加し、民有林施策についての知見を深めました。

中部森林管理局では、多様で健全な森林の整備を推進し地球温暖化防止に資するため、民有林とも連携し、引き続き率先して間伐等に取り組むこととしています。

松くい虫被害対策として

空中散布を実施

「東信署」六月十日から十七日にかけて、上小地区の青木村（飯綱山国有林）及び上田市（半過山国有林）で、松食い虫被害対策として空中散布を約九十七鈔実施しました。

当該地区の松くい虫被害は、昭和五十九年度に上田市で確認されて以来、地域一体となり各種予防・駆除事業に取り組んでいますが、未だに被害は拡大傾向にあります。

当該地域の国有林は、民有林に隣接する里山で国道から一望出来る位置にあり、地元住民からも、被害の拡散防止を強く切望されており、「上小地方松くい虫防除対策協議会」を中心に、市町村・関係機関との連携の下で、今後とも地域一体となり適切かつ効果的な防除に努めていくこととしています。



散布に向かうヘリコプター

災害復旧のために職員を派遣

「治山課・企画調整室」六月十四日に発生した岩手・宮城内陸地震により、東北森林管理局岩手南部森林管理署及び宮城北部森林管理署管内等の国有林において、大規模な地すべり、土石流や山腹崩壊・河道閉塞が多数発生しました（七月九日現在、国有林の被害総額約六百億円）。

林野庁及び東北森林管理局では、当日に対策本部を設置し、翌六月十五日には職員及び専門家によるヘリコプターからの空中調査や現地調査を実施し、その後復旧のための災害関連緊急事業の採択、二次災害防止のための土石流センサー等の設置、孤立集落への迂回路等として使用できる国有林林道の緊急整備等、復旧に向けて懸命な作業が続けられています。

このような事態に対し、全国の森林管理局等から「治山技術エキスパート部隊」として九名の治山技術者が現地に派遣され、中部局からも田中上席技術指導官（名古屋事務所）と川田設計指導官（局治山課）の二名が岩手南部署において復旧のための調査、設計等の業務にあたりました（六月二十五日から七月九日）。

川田指導官によれば、現地は八十八箇所一五二鈔（最大約十八鈔）もの山地崩壊など甚大な被害が発生。これに対し

ササユリについては、「灌木の刈り払いを行い自生地の拡大を目指す」、「看板の設置等を行い、県条例に指定されている希少野生植物を幅広く知ってもらい、関心を持つことよって、保護を進めていく」。また、カタクリについては、「日光を遮る低木・ササ等の刈り払いを行い自生地の拡大を目指す」、「踏み荒らしの恐れのある箇所については看板・柵の設置等を行う」等の意見が出されました。

今後、出された意見を基に具体的な整備方針を当センターで作成し、意見交換会の出席者、関係機関との調整を行い保護に向けた整備を行っていくこととします。



岩手南部署における打合わせの状況

岩手南部署の治山課、東北局管内から集まった技術者とともに復旧予算の要求などに全力で取り組んできたとのことです。

被災地の一日も早い復旧を願うばかりですが、このような状況においてこそ、全国的な組織である国有林がその機動力と組織力・技術力を活かし、国民の生命・財産を守るため、被災地の早期復旧に率先して取り組むことが求められているところではあります。

なお、七月八日からは第二陣として小池治山技術専門官（局森林整備部）と曾我技術指導官（名古屋事務所）が現地入りし、引き続き災害復旧業務にあたっています（七月二十一日までの予定）。

管内各県との林政協議会等の開催について

「企画調整室」六月十一日から二十五日にかけて、中部森林管理局では、民有林施策との連携強化を目的に、管内各県と

の間で林政協議会等を開催しました。

六月十一日の長野県林政協議会では、総合委員長である局計画部長をはじめ双方の関係課長等が出席し、局からは間伐の促進や国産材の安定供給等の課題に国有林として率先して取り組む考えを示し、民有林と国有林との一層の連携について呼びかけを行いました。長野県からは信州の森林づくりアクションプランに基づく森林整備の推進、本年度より導入された森林づくり県民税による里山での間伐の集中的実施、林務部に新設された野生鳥獣対策室によるシカ被害対策など「みんなで支えるふるさとの森林づくり」をキーワードとする取組について説明を行いました。署、地方事務所、地元市町村等との間で締結された森林整備推進協定の実施状況も報告され、新たな協定締結に向けて連携していくこととしました。

十七日の岐阜県との会合には、局企画調整室長、名古屋事務所副所長、県・森林整備課長等が出席しました。局からは、民有林とも連携して対前年度一五〇%となる間伐に取り組んでいくなど国有林の本年度の事業内容について説明しました。岐阜県からは、災害に強い森林づくりの推進や、林業及び木材産業の振興等を柱とする施策について説明があり、高性能林業機械による伐採専門チームの育成等の取り組みについて紹介されました。また森林教室等の情報共

有、相互参画について提案があり、岐阜署流域管理調整官から具体的なイベントの予定等について情報提供するとともに、教育委員会に対する働きかけ等双方で連携して行っていくこととしました。

二十五日の富山県林政協議会には、局次長、計画部長、富山署署長、富山県農林水産部長に加え、北陸地方整備局、県土木部などの関係者が出席しました。国有林の事業説明に続いて、富山県が当年度林政・自然保護関係事業の概要、森林組合連合会等関係機関の事業概要などについて報告しました。会議では事業計画に基づき、治山・砂防連絡調整会議の開催などを通じて、引き続き関係者間の連携を進めていくことで合意しました。

また、意見交換を通じ、今後も相互の情報交換を進めるとともに、森林管理署においても県の出先事務所との間で個々の事業・施策を持ちより調整するなどによって、民有林施策との連携をより強化していくこととしました。なお、愛知県との連絡調整会議については七月二十五日に開催する予定です。



林政協議会の様子

軽井沢台風9号被害跡地復旧検討委員会（第一回）を開催

「東信署」七月二日、軽井沢町役場において、「軽井沢台風9号被害跡地復旧検討委員会」を開催しました。

この検討会は、平成十九年九月の台風で発生した風倒被害の跡地（浅間山国有林二〇七〇林班い、ろ小班、二・六一ハ）の復旧及びその後の管理について検討することを目的に信州大学の教授をはじめ地元各区長等八名の委員で構成されています。

今回は、検討委員会の前に現地の状況を確認するため被害地の視察を実施した後、委員会場の軽井沢町役場に移動しました。

当日は、検討委員八名、当署から関係者三名が出席し、運営要綱の確認、検討委員会での検討内容等について検討し、



検討委員会の様子

跡地に植える樹種や管理の方法等について軽井沢町内外の住民からアイデアを募るなどの方針を決めました。

今後、検討委員会では、軽井沢町広報誌等を通じて軽井沢町民等からアイデアを募集し、その中から復旧の実施方法等を検討することとしています。



地域と一体となった景観整備

「美しい森林づくり」

530運動の実施

〔愛知所〕530(ゴミゼロ)運動は、昭和五十年頃、豊橋市の葦毛湿原(東部丘陵地帯)の自然歩道で、来訪者が増えることでゴミの散乱が目につくようになったため、「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」を合い言葉に、豊橋市などがゴミを拾い歩く運動を始め、全国に広まったとされています。毎年五月三十日にはこの530にちなみ、全国各地でゴミ拾いを行う行事が開催され、環境意識を高める場となっています。

定光寺自然休養林(愛知県瀬戸市北西部の丘陵)がある市道沿線一帯においても、ゴミ等の不法投棄が後を絶たないため、昨年度から五月三十日に合わせ、林野庁関係職員及び定光寺周辺の関係機関の方々とともに、ゴミの一斉収集を行っ

ており、今年度も関係機関と連携し、「美しい森林づくり推進国民運動」の取組の一環としてゴミ拾いなど景観整備を行いました。

今年度は、瀬戸市役所、定光寺町観光協会、緑山会(林野庁退職者)、名古屋事務所及び愛知所職員計約五十名により道路脇に不法投棄されているゴミ(廃タイヤや五十本、家電製品等々計三ト)を収集しました。入り込みが多い都市近郊林の景観維持については、様々な困難がありますが、今後も「美しい森林」を維持するため関係機関と連携して取り組んでいきたいと思ひます。



ゴミ拾いをする職員

名古屋シテイフォレスト事業

―赤沼田国有林の遊歩道整備―

〔岐阜署・森林技術センター〕『巨樹・巨木「赤沼田天保林」の遊歩道を整備しよ

う』をテーマに第六回名古屋シテイフォレスト事業を、六月二十日赤沼田国有林において実施しました。

「赤沼田天保林」の遊歩道は、平成十二年に「赤沼田天保林の大ヒノキ」が林野庁の巨樹・巨木百選に選定されて以来、見学者が増加しており遊歩道も踏み固められ根への悪影響も心配されています。

そのため、名古屋シテイフォレスト事業により、三年前から遊歩道にスギ・ヒノキのチップ材を敷き天保林の保護活動を行っています。

当日は、天気にも恵まれ、チップ運搬・散布・踏固めの作業を行いました。

最初の頃は、少々手間取っていた作業も、慣れてくるとスムーズに進み、昨年より多く用意したチップもすべて敷き込



チップ材を敷く参加者

まれ、根への悪影響も無くなり、遊歩道も歩きやすく、見た目も綺麗になるなど出来映えに隊員も満足していました。

美ヶ原国有林で

森林整備ボランティア活動



〔中信署〕六月十六日、管内の治山・林道事業を施工している長野林業土木協会 中信支部の十九社、三十一名は、林野庁が進める美しい森林づくり推進国民運動に協賛して、森林整備のボランティア活動に汗を流しました。作業場所は、美ヶ原国有林二四五林班の美ヶ原自然保護センターから焼山バス停までの遊歩道沿いで、散策者の通行の支障となるカラマツの枝処理、レンゲツツジに被さっている笹等の刈り出しを行いました。作業前に渡澤森林官から作業に対する説明を受



森林整備を実施中

け、各自持参した手鎌、鋸等を使用して作業に取りかかりました。当日は、好天で浅間山から志賀高原、北アルプス、乗鞍岳の大パノラマが見渡される中での作業となりました。作業終了時に、金森副支部長から「散策者が気持ち良く美ヶ原高原を散歩できるように協力が出来て充実した気分になりました。今後も大いに機会を作って森林整備に協力していきたい」とのコメントがありました。参加したボランティアの活躍で遊歩道沿いの見通しや通行の安全が改善され、林内も明るくなりレンゲツツジが咲きほこるものと思われまます。

各地からのたより

高校生へ職業ガイダンス

「木曽署・南木曽支署」五月二十七日、岐阜農林高校森林科学科二年生の生徒四十名が林野庁・森林管理署職員の職業ガイダンスを受けるといふ目的で赤沢自然休養林を訪れました。

まず、当署職員が国有林野事業・森林管理署職員の仕事等について説明し、森林には水土保持や資源の循環利用のための重要な働きがあり、その管理は、人々の生活に深く関わってくる大切な仕事であることを学習してもらいました。一方説明した職員も将来を担う学生たちを前



熱心にメモをとる生徒たち

に、改めてその責任の重さを認識するとともに、誇りを持って仕事をしていかなければならないと認識を新たにしました。また、学習の中では、岐阜農林高校卒業生で、今年度の新規採用者である齊藤さん（木曽森林管理署）と江崎さん（南木曽支署）が自らの仕事の内容、国有林へ就職した感想等について紹介を行う場面もあり、生徒たちは、頼もしい先輩たちの話に熱心に聞き入っていました。

次に、日頃の学習の参考とするため、赤沢自然休養林の見学を行いました。職員の案内により赤沢の森林の成り立ち、歴史、森林のはたらき、植生等について解説を聞きながら、休養林の林相観察を行いました。植物の名前について質問をする生徒や、熱心にメモをとる生徒、進路について相談する生徒もおり、学習や進路決定の一助となる、良い機会になったことと思ひます。

今回の学習を契機に、少しでも多くの生徒たちが国有林野事業職員を目指してくれることを期待します。

「遊々の森」で上下流連携

宮国有林で源流の森づくりを開催

「飛騨署」四月七日に高山市と協定した

宮国有林の「遊々の森」において、第十五回「源流の森づくり」が開催されました。今年は「遊々の森」の協定が締結されたことで活動の幅が広がり、協定の趣旨を生かした形で源流散策をはじめ、巨樹・巨木百選のツメタ谷大イチイやアカマツ遣伝子保護林などの見学、サワケルミの大木を利用したツリークライミングのほか、市有林での間伐体験など多彩な催しとなり、参加者も地元高山市民をはじめ富山市民など約一八〇名と多数の方が参加し、源流の森の一日を楽しみました。

開会式では、高山市が市内の小中学生を対象に「遊々の森」の愛称募集をし「源流の森」と決定したこと、優秀作品に選ばれた子どもたちに表彰状と記念品の授与が行われました。また、この催しにあたって地元高山市一之宮支所から山下宮森林官に、源流部の大河の一滴が生ずる場所への歩道が作設できないかとの相談がありました。ちょうど名古屋林業土木協会久々野高山支部から国有林

におけるボランティア活動の意向があったことを受けて、早速、保安林内の作業に係る許可を得て六月十三日に二十四名が参加し約三五〇メートルの歩道を作設しました。支所長はいさつのなかで「旧高山市の四割の飲料水を供給し、神通川となつて富山湾に豊かな水をそそぐ清流宮川の源流探索が可能となった」と参加者に歩道の紹介をしました。

高山市は農水省の「子ども農山漁村交流プロジェクト」にも全国五〇の選定地域の一つに選ばれており、グリーンツーリズムなどの取組に地元からは「遊々の森」の協定によりさらに活動の広がりをもつことができると期待の声が大きくなっています。



源流探索コースに参加して

「水無山と湿原観察会」

〔富士署〕六月十四日に、南砺市利賀村の水無国有林において、ボランティア隊員や地元自然解説員でつくる「利賀飛翔の会」会員、各団体などから五十名が参加して、水無山の山開きと水無湿原の観察会を行いました。

越中の百山に選定されている水無山は、岐阜県との境に位置し標高一、五〇六メートルの山頂には二等三角点があり、近年登山者が増えており、昨年、利賀飛翔の会と山頂標識や案内標柱を設置しました。山頂において登山者の今年一年の安全を祈願し、白山や乗鞍岳の眺めを楽しみ、水無湿原へ向け下山しました。

水無湿原では、参加者が数人のグループとなって湿性植物の解説を聞きながら散策を楽しみました。今回の観察会で



植物の説明を聞く参加者

はカタクリの花は見頃を過ぎていましたが、散策路沿いにはニリンソウが、水辺にはミズバショウやリュウキンカが可憐な花を咲かせていました。

水無湿原は近年、乾燥化や灌木の侵入が進んだため、平成十五年度から地元南砺市やボランティア団体等と協力し、毎年秋に、保全作業を実施していることを説明すると、「当会もぜひ協力したい」との申し出がありました。

森林ふれあい講座『暗闇の森で幻想的な光を観賞しよう!』

〔名古屋事務所〕六月十四日、蛍の里において第二回森林ふれあい講座を開催しました。

梅雨前の暑い日でしたが、家族連れなど四十名の参加がありました。当日は、「蛍の里」の会員公開日とも重なり、普段は静かな山中も数百人の人出で賑わいました。

はじめに「蛍の会」の加藤会長から蛍の生態や里山の大切さなどについての話を聞きまし

た。やがて暗くなるにしたがい、一匹、二匹と光



説明に聞き入る参加者

り出すたびに歓声があがり、開始から一時間ほどたつ頃には光の乱舞となり、幻想的な光に参加者は見入っていました。

参加者の中には遠い駅から歩いて来た方もみえ「疲れたが来て良かった」、「心が癒されました」等々の声がありました。

林業に建設業の技術を生かす

〈全国で初の協議会発足〉

〔飛騨署〕六月二十六日、高山市民文化会館において、高山建設業協会主催の「ひだ林業・建設業森づくり講演会」が開催され、飛騨地域の建設、林業、行政関係者ら約二百五十名が参加しました。

この催しは、全国で初めて林業と建設業の連携を目的に設立された「ひだ林業・建設業森づくり協議会」が共催となり、地球温暖化防止のための森林整備を多く抱えている林業と、経営の新たな展開を模索している建設業の連携をめざすもので、林業機械が高性能大型化している中、同じような大型機械を使用している建設業界の技術力を活かした共存と地域振興を探ろうというものです。

講演会では、慶応大学工学部の米田雅子教授が「林業と建設業で森林復活」と題し、飛騨地方は森林地帯、林業と建設業が協働する姿「飛騨モデル」も可能との話がありました。次に、当署の川本尾神森林官が技術交流発表会で発表した

「低コスト・高効率間伐作業」による機械化の進んだ伐出作業を紹介、その後、米田教授をコーディネーターにパネルディスカッションが行われました。

翌二十七日は米田教授のほか関係者二十名で山中山国有林における低コスト作業を視察し、飯村荘川森林官から「飛騨でもできた」の取組の紹介、また、美谷添白鳥林工理事長からは、地域の森林・林業を守るために事業体として取り組んできたことの説明がありました。参加された米田教授からは、「低コスト作業に取り組み林業の状況と山で働く人たちの熱心な気持ちが理解できてよかったです」といった感想が述べられ、視察を終りました。



現地を視察する関係者

国有林へ行ってみたい！

（全校生徒を対象に森林教室）

「南信署」当署では、一昨年より地元学校へ出向いていく「出前授業」に積極的に取り組んでおり、小・中学校に森林官自らがPR活動を行い、学校のニーズに合わせた森林教室を目指しています。

学校の教室で森の働きや林業の役割などを伝えていくなかで、大鹿村立大鹿小学校から「今度は現地へ行ってみたい！」との要望をいただき、六月三十日に小学校全児童四十八名と先生十二名の総勢六十名を国有林へ招待し、森林教室を開催しました。

当日は、ネーチャゲームや、樹木観察・ビンゴゲームを交えた楽しい林道



みんなで大合唱

ハイキングを実施しました。

実施後は、「ぼく達の近くに国有林があることを知らなかった」、「森には木だけでなく様々な動物がいることが分かった」、先生からは「普段の児童とはまた違う表情を感じ取れました」等々といった感想をいただき、豊かな自然の残る国有林の一端を伝えることができ、PRにもつながったと感じています。

今後、国有林として子どもたちに、「今、何を残せるのか」をテーマに地元教育機関と連携しつつ森林環境教育に取り組むこととしています。

平成二十年度 永年勤続職員表彰式

平成二十年度中部森林管理局永年勤続職員表彰式が行われ、平野局長から一級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者に対し、永年にわたる国有林野事業職員としての勤労を称えるとともに、精勤章の賞状が授与されました。

精勤章受章者は次の方々です。

◇一級精勤章

（勤続年数三十年以上）

- 技 羽場 達夫（企画調整室）
- 技 桂川 佳之（職員厚生課）
- 技 坂口美智江（〃）
- 技 相澤 義継（計画課）
- 技 松嶋 克彰（〃）

- 技 西田 敦（森林整備課）
- 技 井上 武次（販売課）
- 技 白子 和広（伊那谷総合）
- 技 村松 亮治（中信署）
- 技 大西 満信（東信署）
- 基 日向 誠（〃）
- 事 菅沼いく子（南信署）
- 基 山崎 邦彦（〃）
- 基 松下 勇（〃）
- 基 木下 勝夫（〃）
- 基 深尾 正人（〃）
- 基 古畑 實雄（木曾署）
- 基 香山 強二（〃）
- 基 古畑 光雄（〃）
- 基 畑中 広治（〃）
- 基 高橋 直行（〃）
- 基 三瀬 正義（〃）
- 基 山田 栄治（〃）
- 基 奥原 豊（〃）
- 基 木戸口一彦（〃）
- 技 木内 伸夫（南木曾支署）
- 基 境 進（〃）
- 基 下林 浩二（〃）
- 基 村松 俊幸（〃）
- 基 川井 清（〃）
- 技 反中 孝一（飛騨署）
- 技 芹田 滋弘（〃）
- 基 坂下 優（〃）
- 基 山口 良一（〃）
- 技 牧田 政敏（岐阜署）
- 技 小林 泰喜（〃）
- 技 湯浅 正明（〃）

◇二級精勤章

（勤続年数二十年以上）

- 技 小森 哲也（企画調整室）
- 技 佐藤 睦（総務課）
- 技 黒田 誠（国有林野管理課）
- 技 門原 秀人（愛知所）
- 技 仲沢 祐二（東信署）
- 技 中村 享（木曾署）
- 技 谷口 直幸（〃）
- 技 松田 博文（南木曾支署）
- 基 木戸 一夫（〃）
- 技 可知 光輝（岐阜署）
- 技 早川 幸治（東濃署）

- 事 山内 里美（〃）
- 元基 中島伸治（〃）
- 技 稲垣 正紀（東濃署）
- 技 安藤 康生（〃）
- 基 堀 好美（〃）
- 基 坪田 茂（〃）

四十三名

十一名



シリーズ
現場最前線

〔愛知森林管理事務所
豊邦森林事務所〕



横断排水溝を敷設中

当班の現場は、愛知県北設楽郡設楽町にある段戸山（標高一、一五二メートル）を源流とする豊川の源流部に当り段戸高原県立自然公園に指定されています。国有林の大半は水源涵養等の保安林に指定されており、下流域の住民の重要な水源地となっています。約九〇パーセントがヒノキを中心とした人工林となっており、そのため七〇メートル以上に及ぶ林道や作業道の路網が整備されています。

班員二名は、毎朝、森林事務所において森林官の指示のもとミーティングを行い、主に林道維持修繕や森林保全管理業務を行っています。

務を行っています。この時期、熱中症対策や防蜂対策には十分注意を払い万全な体制で現場作業に臨んでいます。

また、裏谷地区には、愛知県では最

大規模の原生林「きららの森（通称）」があり、自然観察など多くの人に利用されています。夏季シーズンは数多くの小学校の森林教室が行われ、現場では、通

常業務の傍ら、所内担当職員の指導を仰ぎつつ、また、児童との受け答えを楽しみながら森林環境教育の業務にも携わっています。

もり
森林の絵画コンクール作品募集! ●幼児及び小・中学生の皆さん!

森林（もり）に対する思いを描いてみませんか。あなたがイメージする「美しい森林」・あったらいいなこんな森林・つくってみたいこんな森林” そんな夢のある森林を描いてみませんか。

森林（もり）の絵画コンクール作品募集要領

1. 応募に当たって

- (1)テーマ：①あなたがイメージする「美しい森林（もり）」 ②森林へ行った時の楽しい思い出 ③「こんな森林があったらいいな、こんな森林をつくってみたいな」という夢のある絵とします。
- (2)応募作品：4つ切りサイズ以内の画用紙に、クレヨン、水彩絵具、色鉛筆又はボールペンで描いた未発表の作品とし、応募点数に制限はありません。
- (3)応募資格：幼児及び小・中学生とします。
(幼児、小学生低学年（1～3年生）、高学年（4～6年生）、中学生に区分）
- (4)応募方法：応募票に必要事項を記入し、作品と一緒に送ってください。
なお、作品は折れ目が付かないようにして下さい。
応募票は、ホームページから入手できます。
ホームページアドレス：http://www.mori758.go.jp/
- (5)締切：平成20年9月16日（火）
- (6)応募先：名古屋熱田区熱田西町1-20 中部森林管理局名古屋事務所
「森林の絵画コンクール係」宛（TEL052-683-9206・IP050-3160-6660）

2. 入賞者の発表と表彰

入賞作品の発表は10月上旬とし、入賞者には文書等でお知らせします。
幼児、小学生低学年（1～3年生）、高学年（4～6年生）、中学生の4部門とし、各部門の入賞作品は、中部森林管理局長（金賞）、中日新聞社賞（銀賞）、中部日本治山治水連盟賞（銅賞）各1点及び中部森林管理局名古屋事務所賞（佳作）2点とします。
なお、表彰式については、別途入賞者にお知らせします。

3. 作品の取扱い方法

応募作品の著作権・版権は、中部森林管理局・中日新聞社・中部日本治山治水連盟に帰属するものとします。
主催／林野庁中部森林管理局名古屋事務所・中日新聞社・中部日本治山治水連盟
協賛／べんてる株式会社

森林の絵画コンクール応募票

キリトリ線

題名													
フリガナ氏名											性別（男・女）		
保護者氏名											年齢（歳）		
住所	郵便番号〒												
	電話（ ）												
部門	幼児			小学生低学年			小学生高学年			中学生			
	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	

※性別・部門欄は、該当する事項及び数字を○で囲んで下さい。

「平成十九年度

中部森林技術交流発表会

「優秀賞受賞課題」を紹介 2

「飛騨でもできた」を目指し

民有林・国有林が連携した

低コスト作業の取り組み

飛騨署 尾神森林官 川本 芳光

” 流域管理調整官 (発表当時) 中谷 博

一 課題を取りあげた背景

飛騨地域のようにスギ、カラマツ人工林の割合が高い地域での間伐促進と木材利用には、事業コストの低減が重要な課題となっています。

平成十八年度に新たな「森林・林業基本計画」と「岐阜県森林づくり基本条



四万十方式を取り入れた路網作設

例」が策定されるなか、民有林・国有林が連携し取り組みことが重要との認識の下、地域と連携し低コスト作業の実践と普及に取り組みました。

二 経 過

国有林では、中部森林管理局の低コスト・高効率作業のモデル事業として高山市・高山市にある山中山国有林が指定され、高性能林業機械と「四万十方式」の路網作設を取り入れた請負の発注を実践しました。

民有林側では、同町一色地区において路網と中間土場活用による輸送経費軽減の取組が行われ、民国相互に情報の共有をするなど連携しながら進めていきました。

三 実行結果

山中山国有林の取組では、山としっかりと向き合う中で飛騨でも四万十方式を実践できたことともに、発注側請負側それぞれの問題点・課題をまとめ、トータルコスト縮減を念頭に、今後も継続する取組のスパイラルアップが可能となりました。

民有林での取組は、新たな輸送手段と



スキー場の駐車場を利用した中間土場：民有林と連携した視察会

四 考 察

民有林と国有林が連携することで、取組活動の広がりが見られ、低コスト作業の必要性と可能性を地域に広く普及できたとともに、地域からは国有林へのリーダーシップを望む声も聞かれ、「国有林があつてよかった」という評価を受けることができました。

して成果があがり、民国連携による効果的な普及など、飛騨地域での低コスト作業の取組が大きく動き出しました。
また、地元の小学生に山中山国有林を見学してもらうなど、広く地域の方々へ国有林の取組をPRすることができました。

低コスト作業は山主への還元や森林整備を通じた地球温暖化防止、国産材の復活につながることを意識し、「飛騨でもできた」を合い言葉に、今後も実践と普及に取り組んでいきます。



荘川小学校5年生による山中山国有林見学





実験林・試験地等紹介



〔東信森林管理署・指導普及課〕旧長野局における複層林の造成は、設定時は樹種の特長を生かしたヒノキ人工林の植栽が主体となっており、天然に発生する稚樹の有効活用が効率的な複層林造成に必要でした。

管内各署で類似した作業が行われており、小規模では一定の成果があったとされており、ヒノキ人工林において事業的規模で天然更新施業法の確立を目的として昭和五十三年に設定されました。

○実験林の概要

- 場所 奈良本山国有林一八〇林班
- 標高 一、〇〇〇～一、一六〇m
- 土壌型 適潤性黒色土が主体
- 基岩 第三紀層 堆積岩（砂岩他）
- 方位 北東～北西
- 年平均気温 七度
- 年降水量 一、四〇〇mm
- 林況 ヒノキ人工林（大正三～五年植）85%
- カラマツ補植10%
- アカマツ5%（天然生）

面積 三四・九〇畝

○実験林内の試験

実験林内では次の四種類の試験を行っています。

△漸伐試験

当時、実験林の大半の林床には過去二回の間伐によりヒノキ稚樹が鈴当り一〇万本の発生を見ていたところから、従来
の漸伐施業を主体として更新を促す試験を行っています。

（対象面積 二五・三〇畝）

△帯状皆伐試験

前記、漸伐試験との比較検討として、保残区と皆伐区を二区画ずつ設定。

（対象面積 一・三二畝）

△小面積皆伐

帯状皆伐区と同様に漸伐試験との比較検討として鈴当り四千本の植栽を実施。

（対象面積 〇・六一畝）

△大径材生産

当初、間伐を繰返し大径材生産を行う試験として設定。

（設定面積 七・六七畝）

○試験地の更新状況等

調査結果から、コケ型では稚樹の発生が多く、稚樹生長はササ型で伐採率の低い方が良いことが明らかとなつていま
す。また小面積皆伐では広葉樹の侵入が著しく多いことも明らかとなりました。

○近年の取組

漸伐試験では場所によって更新状況が様々であること等から、稚樹の生長促進

等のため上層木の疎開に取り組むこと。また、大径材生産についても間伐を実施し取り組むこととして、平成十四～十五年度に間伐を実施しています。

○今後の取組

設定から三十年が経過していますが近年、間伐による稚樹発生・稚樹の生長促

進に取り組んでいることから今後も計画的な調査を実施していくこととしていま
す。

○所在地 長野県小県郡青木村

この実験林は、森林施業モデル林として
います。



奈良本山実験林の天然更新の様子



宇宙との窓口 パラボラアンテナ

【東信署】ここは蓼科山の北東に位置する大曲国有林、カラマツ林の山道を走行していると突然目に飛び込んでくる巨大なパラボラアンテナ、一気に気持ちが高ぶる。何かしら胸が高鳴るような不思議な光景である。車でアンテナの真下まで行ける。日によってアンテナは向きを変え、常にゴーという音について上を見上げてしまう。

ここは、臼田宇宙空間観測所という、文部科学省宇宙科学研究所の付属施設です。

この施設は、惑星や彗星のような天体に接近して観測を行う深宇宙探査機に向けて動作指令を送信したり、探査機からの観測データを受信するために建設されました。都市雑音などの妨害電波が少ないこの地が選ばれ、一九八四年十月月から運用しており、施設の中核をなす大型パラボラアンテナは、直径が六十四メートル

射鏡を有し、総重量は一、九八〇トンとのこと
です。

この観測所が追跡する日本の宇宙探査機は、我が国初の人工衛星で一九八五年一月八日に打上られた「さきがけ」をはじめ、「すいせい」、「ひてん」、「はるか」など現在八機あるとのこと
です。

このほかにも、色々な宇宙波を解析しており、いつか地球以外の生命体が発した電波を捉えることもあるかもしれません。

また、ここには、太陽系の一部が五十五億分の一の模型で展示されています。

宇宙空間の旅に一度訪れてみませんか。

◆アクセス

要車 国道一四一号線 佐久市臼田下小田切信号を西へ向かい約四〇分、最寄り駅は小海線臼田駅。

施設の案内看板



パラボラアンテナと関連施設

突然見えるパラボラアンテナ

行事・会議等の予定

◎教職員森林環境教育研修

- 8月4日 木曾署管内
- 8月6日 愛知所管内
- 8月7日 中信署管内
- 8月8日 南信署管内

◎森林ふれあい講座

- 8月23日 名古屋事務所

◎名古屋シティ・フォレスト事業

- 8月30日 飛騨署管内

